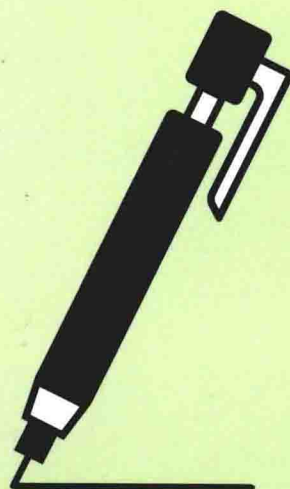


大 学 生 の た め の
文 章 表 現
練 習 帳

坂東実子



〈設計図〉を使って文章を書く！

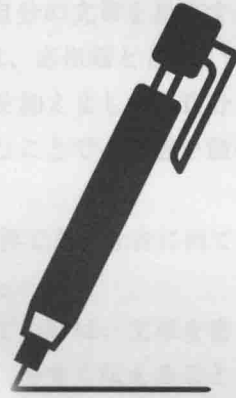
「基本の型」を学んで、大学での学びに必要な
文章力とスキルを身につけよう！

身近なものから社会問題まで、さまざまなテーマで文章を書く
トレーニング&グループワーク8課を収録！

はじめに

大学生のための
文章表現
練習帳

坂東実子



坂東 (丸尾) 実子 ばんどう (まるお) じつこ

敬愛大学国際学部・東京外国語大学留学生日本語教育センター非常勤講師

東京学芸大学大学院教育学研究科国語教育専攻修士課程修了

成城大学大学院文学研究科国文学専攻博士後期課程単位取得満期退学

大手大学進学予備校にて国語および小論文の模擬試験に20年以上関わる。

タイ国タマサート大学教養学部および大学院国際学研究科専任講師

著書 (共著)

『大学生のための文章表現&口頭発表 練習帳』

(国書刊行会、2013)

本書は、『大学生のための文章表現&口頭発表 練習帳』(2013年)より、「文章表現」篇を中心に再構成し加筆したものです。追加した課はありますが、基本的な内容に変更はありません。

だいがくせい ぶんしょうひょうげん れんしゅうちょう
大学生のための文章表現 練習帳

2016年2月20日 初版第一刷 発行

著者……………坂東実子

発行者……………佐藤今朝夫

発行所……………株式会社国書刊行会
〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15
電話 03-5970-7421 ファクス 03-5970-7427
<http://www.kokusho.co.jp>

装幀……………長田年伸

組版……………株式会社明昌堂・株式会社シーフォース

印刷……………株式会社シーフォース

製本……………株式会社村上製本所

ISBN 978-4-336-05997-0

乱丁本・落丁本はお取り替えいたしません。

はじめに

本書の特徴・使い方

第1部 ことばのドリル……………11

第2部 文章表現……………23

第1課 紹介文1

——私の好きなもの(こと)——……………24

第2課 紹介文2

——私の故郷——……………30

第3課 賛成・反対の意見文1

——「高校の制服」をテーマに——……………36

第4課 賛成・反対の意見文2

——「夫婦別姓」をテーマに——……………42

応用 賛成・反対の意見文(グループワーク)……………51

Step 1 文章解読・発見的（見本を見る）

読解問題・読解の読本

見本となる文章例を提示しています。まずはここを読んで、例のようにならざるを得ない文章表現を身につけてください。

Step 2 読解問題 例（見本の「手順」を知る）

読解問題の解法を例として示しています。読解問題の解法は、読解問題の解法を例として示しています。読解問題の解法は、読解問題の解法を例として示しています。

第5課 before/after の文章 1
——〇〇になる（をする）前と後——56

第6課 before/after の文章 2
——〇〇になる（ができる）前と後——62

第7課 対立項と時間軸のある文章
——調査年度の異なる統計資料を読んで——68

第8課 レポート before/after の文章（応用編）
——レポートの準備・構成・書き方——76

第3部 敬語のドリル.....83

Step 5 文章作成（敬語する）

ドリル解答.....101

Step 6 仕上げチェック

ポイントを確認しながら3回読んでみてください。このドリルは、敬語の練習のために作成されています。敬語の練習のために作成されています。

本書は、『大学生のための文章表現&口頭発表 練習帳』（2013年）より、「文章表現」篇を中心に再構成し加筆したものです。

はじめに

この本は、文章を書くことに慣れていない学生が、身近なテーマから少しずつトレーニングや実践の段階を経て、大学の学びに必要な文章表現力をつけ、読む人に伝わりやすい文章を書けるようになることを目指しています。

既刊『大学生のための文章表現&口頭発表 練習帳』（国書刊行会、2013）より、「ことばのドリル」、「文章表現編」、「敬語のドリル」を独立させ、加筆しました。「口頭発表」も学びたい人は、既刊をお使ください。

本書の一番の特徴は、課題ごとに「型」を提示し、〈設計図〉を埋めていくことで、自分の考えを表現できるようにしていることです。各課に、自分の文章を見直すことができる「セルフチェック表」もついています。第4課、第8課には、応用編として、ディスカッション、ディベートの要素も取り入れたグループワークの課題を加えました。自分ひとりで調べ、考えるよりも、複数の人たちで話し合い、一緒に取り組むことで、内容を深めることができるでしょう。

「ことばのドリル」、「敬語のドリル」は基礎知識が復習でき、社会に出てからも役に立つよう構成しました。

この本のトレーニングメニューに沿って練習を重ねていけば、文章を書くことへの苦手意識がなくなり、自分の考えを根拠立てて、相手にわかりやすく伝えることができるようになるでしょう。大学での学びをより有意義なものにするためにお役立てください。

2016年2月

坂東実子

はじめに

本書の特徴・使い方

第1部 ことばのドリル.....11

第2部 文章表現.....23

第1課 紹介文1

——私の好きなもの(こと)——24

第2課 紹介文2

——私の故郷——30

第3課 賛成・反対の意見文1

——「高校の制服」をテーマに——36

第4課 賛成・反対の意見文2

——「夫婦別姓」をテーマに——42

応用 賛成・反対の意見文(グループワーク)51

Step 1 文章解読・発見的 (見本を見る)

読解例・発見的見本

見本となる文章例を提示しています。まずはここを読んで、例のようにならざるを得ない

文章の構造や表現の仕方、あるいは語彙や文法、あるいは文脈や内容、あるいは

読者の視点や感情など、いろいろな観点から見て、その文章がどのような

Step 2 (読解例) 例 (見本の「例」を知る)

この文章は「例」です。この文章は「例」です。この文章は「例」です。この文章は「例」です。

この文章は「例」です。この文章は「例」です。この文章は「例」です。この文章は「例」です。

この文章は「例」です。この文章は「例」です。この文章は「例」です。この文章は「例」です。

この文章は「例」です。この文章は「例」です。この文章は「例」です。この文章は「例」です。

第5課 before/after の文章 1
——〇〇になる (を) 前と後——56

第6課 before/after の文章 2
——〇〇になる (が) できる 前と後——62

第7課 対立項と時間軸のある文章
——調査年度の異なる統計資料を読んで——68

第8課 レポート before/after の文章 (応用編)
——レポートの準備・構成・書き方——76

第3部 敬語のドリル.....83

Step 5 文章作成 (敬語)

(敬語) 敬語の文章を作成してください。

ドリル解答.....101

(敬語) 敬語の文章を作成してください。

Step 6 話し方チェック

ポイントを確認しながら、実際に話し方チェックを行います。話し方チェックは、話し方チェックのポイントをしっかりと覚えておくことが大切です。話し方チェックのポイントは、話し方チェックのポイントをしっかりと覚えておくことが大切です。

本書は、『大学生のための文章表現&口頭発表 練習帳』(2013年)より、「文章表現」篇を中心に再構成し加筆したものです。

本書の特徴・使い方

本書のねらい

しっかりした文章を書けることは、大学に限らず、社会に出てからも基本となるスキルです。そのスキルを養成するために、この本は編集されています。また文章が書けるようになれば、きちんとした発表ができるようになります。

大学では、多くのレポートを書き、発表します。調べた情報を紹介し、考察して意見を伝える、というものです。ここでは「わかりやすく伝える」ことが重要になります。

本書には、書きやすく、話しやすく、読みやすく、わかりやすい表現方法を身につけるためのトレーニングメニューが組まれています。

スポーツや芸術や仕事など、何でもはじめは、目的を持ち、見本を見て、基本の型を学びます。押さえるべきポイントがわかると、セルフチェックできるようになり、そのうち自分自身のスタイルが確立します。文章表現の場合も同様に基礎練習から始めることが、上達の近道であると言えるでしょう。

本書のトレーニングを通して、相手にしっかりと自分の考えを伝えられる表現力を身につけましょう。

本書が大切にしているのは、「立体的」に考え、書くことです。「立体的」な文章は説得力や共感させる力を持ちます。コントラストをつけることで物事は立体的に表現できます。本書では、明暗、遠近を考え、表現することや文章構成において対立項・時間軸を明確にわかることを学びます。

本書の構成

本書は大きく3つにわかれています。

ことばのドリル（基本的な言葉づかい、仮名づかいなどを復習します）

文章表現（全8課）

敬語のドリル（敬語の基礎を学習します）

「文章表現」は、基本的に以下の流れで構成されています。

では、どのような流れで学習を進めるか6つのStepを見てみましょう。

Step 1 この課で学ぶこと（目的を持つ）

各課で学ぶことが簡潔に提示されています。何をやるべきなのか、目を通しましょう。



Step 2 文章例／発表例（見本を見る）

見本となる文章例を提示しています。まずはここを読んで、例のような文章を書くことを目指します。

Step 3 〈設計図〉例（見本の「型」を知る）

見本の文章例の後に、〈設計図〉例を設定しています。例となる文章は、この〈設計図〉に基づき考えられています。どのような〈設計図〉を書けば、見本のような文章を完成させることができるのか、この〈設計図〉をよく見て考えましょう。

Step 4 〈設計図〉に記入（「型」に従って構成を立てる）

自分の〈設計図〉を書きます。〈設計図〉にはあらかじめ何を書けばいいのか指示があります。その指示に従って、空欄を埋めていきましょう。いきなり文章を書くことは難しくても、この〈設計図〉に沿って、流れを考え、考えをまとめていけば、「自分の文章」を完成させられるようになります。

Step 5 文章作成（表現する）

いよいよ自分の文章を書きます。先に作成した〈設計図〉に基づいて、構成がしっかりした文章を書きましょう。

Step 6 セルフチェック

ポイントを押さえながら課題に取り組んだり、できあがった時点で確認したりできるようにセルフチェック表がついています。慣れてくると、この表がなくても重要な点を意識することができるようになります。

本文中に「ダウンロード」というアイコンがある場合、出版社のホームページ (<http://www.kokusho.co.jp>) より、ワークシートをダウンロードすることができます。授業で配布される場合もあるかもしれませんが、自分でも気軽にダウンロードして、さまざまなテーマに挑戦してみましょう。

以下の資料がダウンロードできます。

オリジナル原稿用紙 20字×25行 (文章表現第1～3課)

30字×30行 (文章表現第4～6課)

40字×40行 (文章表現第7課)

発表スクリプト用紙 (既刊の「口頭発表」第1～4課)

他にも、文章見本、応用問題、レポート例、シラバス例などが順次追加される予定です。

本書の特徴

「書きやすい」から「わかりやすい」

やみくもに書き始めて、途中で何を言いたいのかわからなくなったり、尻すぼみになったりした経験がある人は多いでしょう。「○○について800字で書きましょう」と言われて、絶望的な気持ちになった経験はありませんか。

本書の「例」を見本に〈設計図(型)〉に記入し、見通しを立てて書くトレーニングは、これまで文章を書くのが苦手だった人や、相手に意見をうまく伝えられなかった人にも、とても取り組みやすいものです。そして基本の構成のもとに書き進めると、思考も整理され、仕上がった文章は、読む人にとっても、非常にわかりやすいものになります。

実際に、このトレーニングを通して、書くのが苦痛ではなくなった、レポートの評価が上がった、などの声がよく聞かれます。

「型」を身につけよう

本書の「型」のトレーニングでは以下のような文章、口頭発表のスクリプトが書けるようになります。

- ① 序論・本論・結論(起承転結)の構成が読みとりやすい。
- ② 客観的情報と主観的情報の区別がしっかりしている。
- ③ 問題になっている事柄の「対立軸」がはっきりしている。
- ④ 過去・現在・未来など情報の「時間軸」が整理されている。

「型」を使う大切さについて

こうした「型」の要素は、自分の考えを整理することにも役立ちます。「型どおり」「型にはまった」というように「型」が否定的にとらえられることもあります。しかし、「わかりやすさ」「感動」を生む人間のコミュニケーションの基本、普遍的な要素でもあるのです。例えば、「世界に一つだけの花」という歌があります。この歌も実は本書で学ぶものと同じ「型」を持っています。

<p>世界に一つだけの花 作詞・作曲／槇原敬之</p>	
<p>花屋の店先に並んだ いろんな花を見ていた ひとそれぞれ好みはあるけど どれもみんなきれいだね</p>	<p>起 花についての導入</p>
<p>この中で誰が一番だなんて 争うこともしないで バケツの中誇らしげに しゃんと胸を張っている</p>	<p>承 花の様子 ←</p>
<p>それなのに僕ら人間は どうしてこうも比べたがる？ 一人一人違うのにその中で 一番になりたがる？</p>	<p>転 人間の様子 ←</p> <p style="text-align: center;">対立項</p>
<p>そうさ 僕らは 世界に一つだけの花 一人一人違う種を持つ その花を咲かせることだけに 一生懸命になればいい</p>	<p>結 未来や他者に向かって開く</p>

日本音楽著作権協会（出）許諾第1600608-601号

私たちの身の回りにある、わかりやすく、感動を伝える表現の多くが、このような基本的な「型」を持ち、そのうえで、さまざまな個性的なスタイルを確立しています。

セルフチェック

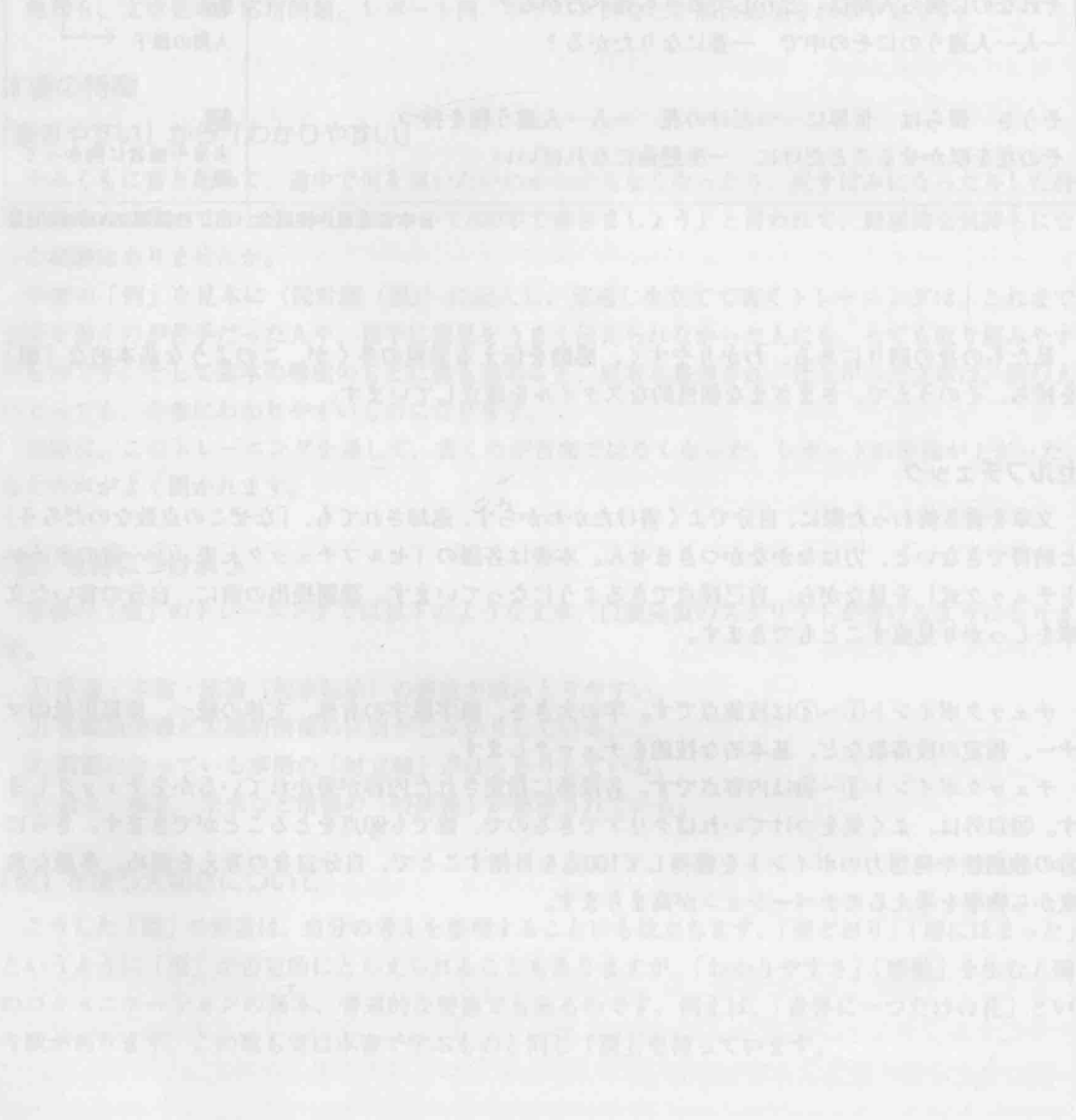
文章を書き終わった際に、自分でよく書けたかわからず、返却されても、「なぜこの点数なのだろう」と納得できないと、力はなかなかつきません。本書は各課の「セルフチェック」表（①～⑩のポイントチェック式）を見ながら、自己採点できるようになっています。課題提出の前に、自分の書いた文章をしっかり見直すこともできます。

チェックポイント①～④は技能点です。字の大きさ、誤字脱字の有無、文体の統一、原稿用紙のマナー、指定の段落数など、基本的な技能をチェックします。

チェックポイント⑤～⑩は内容点です。各段落に指定された内容が書かれているかをチェックします。⑩以外は、よく気をつけていればクリアできるので、誰でも90点をとることができます。さらに⑩の独創性や発想力のポイントを獲得して100点を目指すことで、自分自身の考えを深め、多様な角度から物事を考えるモチベーションが高まります。

参考文献

小笠原喜康 (2002) 『大学生のためのレポート・論文術』 講談社
 吉岡友治 (2002) 『吉岡のなるほど小論文講義10』 桐原書店
 樋口裕一 (2010) 『文章表現の技術 "文章力"がメキメキ上達する』 産業能率大学出版部
 高崎経済大学産業研究所編 (2013) 『高大連携と能力形成』 日本経済評論社
 長尾佳代子・谷川裕稔・中園篤典 (2013) 『大学生・短大生のための 大学での学び方』 旺文社
 安永悟・須藤文 (2014) 『LTD話し合い学習法』 ナカニシヤ出版
 平川敬介 (2015) 『600字で書く 文章表現法』 大阪教育図書 他



第1部 ことばのドリル

このドリルの目的👉

- 「です・ます体」「だ・である体」の2つの文体を書き分ける力をつける
- 「くだけた表現」を「ととのった表現」にする力をつける
- 「主観」表現と「客観」表現を見分け、書き分ける力をつける
- 「箇条書き」を「文章」にまとめたり、「文章」を「箇条書き」に要約する力をつける

ことばのドリル Part 1 「だ・である体」から「です・ます体」へ

I 「だ・である体」の文を「です・ます体」の文に書き換えましょう。

直す表現に下線をつけて、その下に記入しましょう。常体（だ・である体）とは、レポートなどの文書に使用する文体で、敬体（です・ます体）とはスピーチや手紙などに使用する文体です。挿入する引用や会話文などは例外ですが、同一文書内では、文体を統一しましょう。

① 富士山は日本で一番高い山である。

② 私は毎日、朝6時に起床する。

③ 赤い靴はあまり売れないが、黒い靴はよく売れる。

④ 彼は「この本を貸してくれ」と言った。

⑤ 以前はハードカバーの本が好まれたが、最近はあまり好まれないようだ。

⑥ 近い将来、電気自動車が主流になるのではないだろうか。

⑦ 大学入学の年齢に上限はない。

⑧ 「ゴミを捨てるな」という立て看板は、そこにはもう見当たらなかった。

⑨ これは、広島県の観光資源について調査・報告した学生のレポートである。

⑩ かつて、この一帯は海だったが、今では高層マンションが立ち並んでいる。
